



一般社団法人

ワクチン問題研究会

— データベース化した情報をもとに、治療方法を確立していく
それが人と社会への貢献となると信じて —



Theme

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は国内外で人々の健康・生命のみならず社会経済活動にも甚大な損害を与えました

新たな変異株や新たな感染症の発生も懸念されている状況を踏まえて、これまでの医療体制や予防策（ワクチン接種等）を改めて検証し、より科学的・現実的な医療提供体制を提言することが、公衆衛生の発展ひいては持続可能な社会を構築していくためには必要不可欠です。

特に、現在使用されている新型コロナワクチンは、mRNA ワクチンという人類に初めて使用される新しい機序の薬剤で、中長期的な安全性は十分に確認されており、新型コロナワクチン接種後に遷延する健康被害（ワクチン接種後症候群）が顕在化し、有効な治療法に辿りつけずに長期的に苦しんでいる患者が多く存在しています。

世界的にもワクチン接種後症候群が社会問題となりつつあり、mRNA ワクチンの問題を指摘する論文の発表が増えています。しかしながら、「ワクチン接種後症候群にかかる治療体制の確立」はいまだ十分とはいえ、ワクチン接種後症候群の診断基準すらないのが現状です。

ワクチン接種後症候群をこれまでにない疾病概念としてとらえ、診断基準を策定していくことは重要な課題となります。

Objective

ワクチン接種後症候群 疾病登録のデータベース構築事業を通して

ワクチン接種後症候群の診断基準の作成
鑑別診断法・検査法の開発
診療ガイドラインの作成
有効な治療法の開発

日本の臨床研究体制の立て直し

ワクチン接種後症候群に悩む患者さんと
家族の治療やケアの向上に寄与すること
で患者の生活（QOL）の向上

遺伝子操作型核酸含有 LNP 製剤
（ワクチン）の調査・研究

Future

国際基準に則り調査・研究し、学術団体として、ワクチン接種後の副反応及び接種後症候群の診断、検査、並びにその治療方法に関する研修を継続し、研究の上で明らかになった内容に応じたイベントとして、講演活動、研究発表会の開催、出版物の刊行及び販売を行うことも視野に活動していく。

理事・監事

代表理事

福島 雅典

京都大学名誉教授

業務執行理事

藤沢 明德

ほんべつ循環器内科クリニック院長

業務執行理事

児玉 慎一郎

医療法人社団それいゆ会理事長

理事

井上 正康

大阪市立大学名誉教授

理事

吉野 真人

蒲田よしのクリニック院長

監事

志摩 勇

志摩法律事務所 弁護士

設立

2023年6月16日

Project

PVS データベース ワーキンググループ

ワクチン接種後症候群患者の治療を実施する医療機関との連携により、症例データベースを構築、MedDRA、ICD-11 を組み合わせ、国際基準に合わせた研究を行う。

人類に初めて使用された mRNA 核酸医薬製剤である新型コロナワクチンにより、日本のみならず世界的に体調不良を呈する方々の増加が社会的問題となっています。

新型コロナワクチン接種後に遷延する健康被害（ワクチン接種後症候群：PVS）を、これまでにはない「新たな疾病概念」として捉え、ワクチン接種後症候群の病態像を明らかにし、診断基準を策定していくことは重要な課題となります。

PVS データベースワーキンググループの研究は、検査法の開発や適切な治療方法の開発に結び付けて新型コロナワクチン接種による健康被害者を救済することに資するために、新型コロナワクチン接種後症候群の患者レジストリを構築します。

PVS レジストリ臨床研究では、登録して頂いた共同研究機関を受診された患者さんたちの診療状況について情報の集積を行い、データベースを構築するプロジェクトに着手し、2023 年度中にデータの入力までを終了しました。今後解析等を行う予定です。

<PVS レジストリ臨床研究>

2023年11月29日 倫理審査委員会より承認を得る

2023年12月16日 EDC データ入力開始

2024年3月18日 データベース入力終了

2024年3月23日 EDC データ固定

登録被験者数：279

共同研究機関：14



検査方法開発

ワーキンググループ

国際的科学家と連携し、より多く、深く研究することでワクチン接種後症候群に適用可能な検査方法を開発することにより、診断のガイドライン確立を目指す。

mRNA ワクチン後遺症発症メカニズムの解明、治療法の開発、治療効果の判定を行うためには症状に応じて変化する分子マーカーを同定することが重要です。本法人では後遺症データベースに基づいて体系的に検体を集めることが可能です。

mRNA ワクチンによって細胞内で産生されるスパイクタンパク質が後遺症発症の主因であることが疑われています。そこで、スパイクタンパク質の免疫染色法を確立し標準プロトコールを公開し普及を目指します。

2023 年度は mRNA ワクチンで傷害を受けたと考えられる場所にスパイクタンパク質が存在することを証明する事を目的として、免疫染色法の開発のための「スパイクタンパク質安定発現細胞と非発現細胞」「N タンパク質安定発現細胞と非発現細胞」の作成に着手しました。



治療方法確立

ワーキンググループ

各プロジェクトの相互作用により、治療のガイドラインを作成し、治療方法を確立することにより、より多くの医療施設でワクチン接種後症候群の治療が可能となる事を目指す。

新型コロナワクチン接種後の体調不良（PVS）に対して治療を行っている医療機関は非常に少ないのが現状です。また PVS の症状は全身倦怠感、記憶力低下、胸部苦痛、歩行障害、頭痛などと極めて多岐にわたり、一般的な検査をしても異常値が出ない場合も多く、治療法も確立していません。

このような現状を打破するため、ワクチン問題研究会が立ち上がり、PVS に対する治療法の研究と確立、そして普及を推進する事となりました。

本ワーキンググループでは、検査法やデータベース構築、文献検索などのグループと連携し、PVS に対する有効性および安全性の高い、一般の医療機関でも実施可能な治療法の開発および臨床研究に取り組みます。

この治療法研究を通して、今後も新たに出現する可能性のある各種ワクチンによる健康被害への医療的な救済も視野に入れ、現代医療を変革する契機にしたいと考えております。

2023 年度には PVS データベースの臨床研究において、ME/CFS とビタミン D に関して観察された事について 3 月 28 日の記者会見で発表しました。今後は治療法に関する臨床研究に着手する予定です。



文献データベース

ワーキンググループ

より多くの論文をデータベース化し、検索可能なシステムの構築により、全体的な研究に使用役立てるとともに、未来の医療に貢献することを目指す。

パンデミック騒動では有効性や安全性が確立されていない mRNA ワクチンが特例承認されて 8 割以上の日本人に頻回接種されました。

このワクチンは全身のあらゆる組織でスパイクを産生し、「血栓症、循環障害、自己免疫疾患」などで複雑な病状を誘起する為、追加接種率世界一の日本では様々な症状を訴える後遺症患者が激増しています。

本研究会は、コロナウイルス、遺伝子ワクチン、その後遺症等に関する医学情報を網羅する文献データベースを構築し、後遺症の発症機構解明と診断治療法確立により患者救済支援を目指しています。

本研究会の「文献データベース」が信頼可能な情報源としてワクチン被害者救済の一助となる事を願っています。医療の提供や研究のため、文献を必要とする人たちのためにワクチン問題に関連する論文調査をより簡便なものにするための文献検索を容易にすることを旨としたデータベースの構築のため、2023 年度には、ワクチンに関連する論文がどれだけあるのかを集積したデータベースを構築し、論文をリリースしました。

当研究会は学術団体であり、研究によって得られた情報については論文を作成することによって情報発信・啓発の端を担うものと考えます。「COVID-19 ワクチンの副作用：日本における学会発表と世界における論文報告の現状」という論文が「臨床評価」(Vol. 51, No. 3, Feb. 2024)に掲載されました。



代表理事よりご挨拶



はじめに、新型コロナウイルス感染症によって亡くなられた方々、「ワクチン」接種によって亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の方々に心からお悔やみ申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症後遺症並びに「ワクチン」接種後の健康被害で今も闘病されている方々に心よりお見舞い申し上げます。

私たちは、「ワクチン」接種による遷延する副反応に苦しまれる「ワクチン」接種健康被害者に適切な医療を提供すべく、去る 2023 年 6月16日、「ワクチン」接種による健康被害者と真摯に向き合ってきた全国有志医師の会を母体として

学術団体、一般社団法人ワクチン問題研究会を設立しました。

「ワクチン」接種による健康被害は、医薬品による有害事象の国際分類体系である MedDRA では、ワクチン接種後症候群として分類されます。私たちワクチン問題研究会は、診断基準の作成、検査法の開発、治療法の探索、診療ガイドラインの策定等々を目指してすでに活動を開始しました。

人類医学史上初めての mRNA 脂質ナノ粒子製剤であるにもかかわらず、対リスク利益比について慎重かつ十全な議論も検証もなされないまま、ほとんどの国民に投与されて結局、何が起こったのでしょうか？

皆様周知のように、厚労省は 2022 年 3月に「ワクチン」接種後の遷延する副反応についての相談窓口を各自治体に設置するように通知しました。このことが全てを物語っているのではないのでしょうか？

予防接種法に基づく医療機関からの副反応報告は、2023 年 3 月 12 日報告分までで全「ワクチン」合計 36,301 件、重篤者 8,537 件に達しました。

予防接種法に基づく医療機関からの死亡報告は、2023 年 3 月 12 日報告分までで既に全「ワクチン」合計 2,059 件にも上ります。

一方で、予防接種健康被害者救済制度による認定件数は、2023 年 6月29日時点で厚労省に進達受理件数として、8,064 件が上がっていますが、審査率は 44.4%。副反応被害報告 36,317 件と死亡報告 2,059 件を併せた 38,376 件に対して被害救済認定申請率は 21.0%、副反応被害報告と死亡報告に対する認定率は 8.2%に過ぎません。

驚くべきことに厚労省に上がった死亡報告者数 2,059 名に対する死亡認定率は 5.0%にとどまっているのです。早くなんとかしなければなりません。

「ワクチン」接種による死亡率は、上記数字から概算すると、100,000人に 2人、すなわち 0.002%です。「ワクチン」接種当初から半年以内に死亡率は 0.0017%と算出されていたので、事実上この死亡率は一定です。そして大半は「ワクチン」接種後 1日から数日以内に亡くなっているのです。この死亡の実態に驚愕せざるをえません。そして、これは氷山の一角に違いないのです。

このようなことが起きたことについて、冷徹に事実を踏まえて徹底的に反省・総括すべきではないでしょうか？

2021 年 2月にわが国で「ワクチン」接種が始まってから 2 年と半年が経ちました。mRNA 脂質ナノ粒子製剤によって引き起こされた眼の前の惨禍をなかったことにして、歴史の闇に葬ることなどどうしてできるのでしょうか？

私たちは、診療現場に足を踏ん張り続けて、知恵を結集し、この「科学・技術」迷妄の闇を切り開き、人々に健康への希望の光を届けねばならないと決意しています。今、新たな向き合いが始まります。

皆々様方のご支援ご鞭撻を伏してお願い申し上げます。

わたしたちは、世界基準に則り、ワクチン接種後に遷延する症状をはじめとして、様々な問題の研究を行ない、より良い医療の発展と人々のために真摯に研究に取り組みます。

医療の未来の為に

ご支援ありがとうございます。三菱UFJ銀行 宝塚支店 普通口座 0175791



一般社団法人ワクチン問題研究会

兵庫県宝塚市川面 5-10-32-205

TEL : 0797-86-1313 FAX: 0797-86-1633

info@jsvrc.jp



<https://jsvrc.jp>